

新潟県の活火山と火山防災について学ぶ



新潟県は、海・山・平野がそろった多彩な自然に恵まれています。これらは、火山の営みによって長い年月をかけてつくり出されてきました。また、地形だけでなく、火山は、清らかな水や温泉、火山灰のもたらす肥沃な土壌などももたらしています。私たちの新潟の文化、食、観光を支える一因にもなっています。このように火山は、私たちの生活にとって「リスク」と同時に「恵み」をもたらす存在です。しかし近年は全国各地で火山活動が活発化しており、火山性地震や小規模噴火に関するニュースが珍しくありません。新潟県内や隣県にも活火山が複数存在します。火山を「怖いもの」として距離を置くのではなく、正しい知識をもち、万一に備えることが私たち県民に求められています。今回は、火山をテーマにまとめました。

活火山とはどういう火山？

「活火山」とは、概ね過去1万年以内に噴火した火山や現在活発な噴気活動のある火山のこと、111もの活火山があります。

以前使われていた「休火山」や「死火山」という区分は、長期に活動を休止した火山が再び噴火する例が多いため、現在は使われていません。防災の観点から、活動の可能性がある火山はすべて「活火山」として監視されています。



新潟県内の活火山は2つ

国内有数の温泉地として名高い新潟県ですが、常時観測対象の活火山は、いずれも上越地方の新潟焼山と妙高山の2つです。それぞれの火山は、その成り立ちや活動の歴史が大きく異なります。

▲ 新潟焼山（にいがたやけやま）

- ・妙高火山群の北端に位置する比較的新しい火山（溶岩ドーム）
- ・約3,000年前の縄文時代に活動を開始した「若い火山」
- ・14世紀の室町時代に、火碎流が日本海まで約20km流れ下るような大規模なマグマ噴火が発生
- ・過去に複数回噴火。1974年の水蒸気噴火では人的被害も
- ・最新の噴火は2016年のごく小規模な水蒸気噴火

▲ 妙高山（みょうこうさん）

- ・新潟県と長野県境に位置する成層火山
- ・約30万年前から活動を開始した「多世代火山」で、長い休止期を挟んで、4回の大きな活動期を経て現在の形となった
- ・約8,000年前の大噴火で山体崩壊を起こし、カルデラを形成
- ・約4,200年前の火山活動で、火碎流が山麓にまで達した
- ・有史以降、記録に残る噴火活動は確認されていないが、中央火口丘付近では現在も噴気活動が継続している



知りたい“火山防災のポイント”

火山災害から身を守るために、日頃から正しい情報に触れ、いざという時の行動をイメージしておくことが大切です。火山灰の影響は県を超えて広範囲に被害を及ぼすことが想定されています。まず、気象庁が発表する「噴火警戒レベル」を定期的に確認し、自分の住む地域やよく訪れる場所がどのレベルでどんな影響を受けるのかを知っておきましょう。また、自治体が作成するハザードマップには、降灰・火碎流・土石流などの想定区域が示されています。家族で目を通し、避難経路や避難先を共有しておくことが安心につながります。さらに、停電や交通障害に備えて、飲料水・食料・マスク・懐中電灯などの防災用品を準備しておきましょう。平時の備えが最も重要です。

